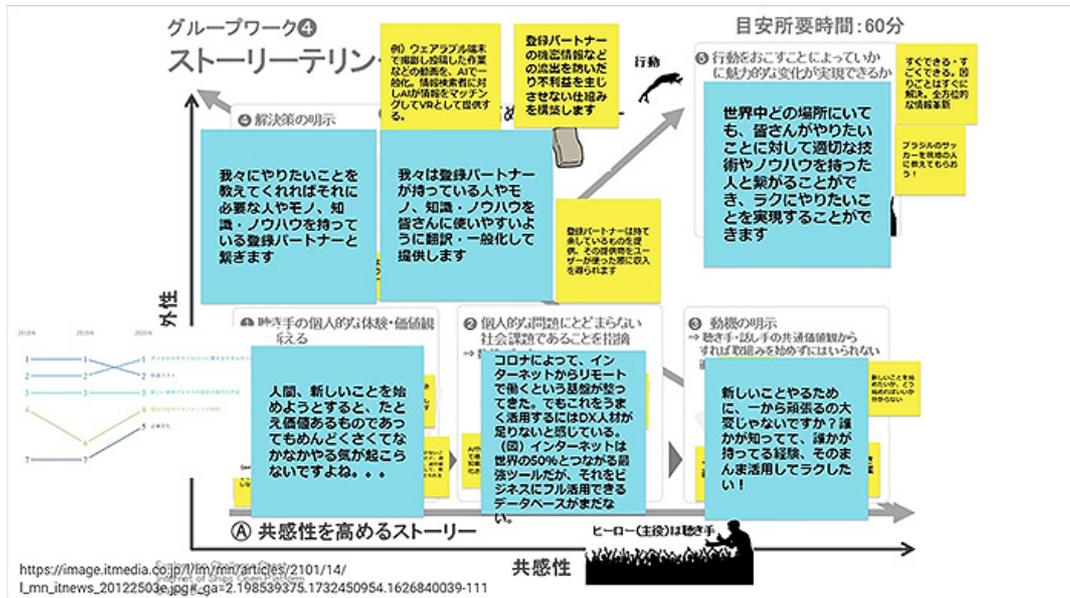


2021年7月28日

2日かけ新たな価値創造に挑戦 I o S - O P 組織、アイデアソン開催



チーム内の作業ボード

シップデータセンター（ShipDC）が事務局を務める会員組織「I o S - O P（Internet of Ships Open Platform）コンソーシアム」は、7月20～21日の2日間、「海事×異業種オープンイノベーション・アイデアソン」をオンライン開催した。半導体大手のインテルが共催した。アイデアソンには海事産業および他産業から50人近くが参加し、社会課題の解決や新たなビジネスに向けたアイデアの創出を目指した。

開催は今回が3回目。昨年9月に第1回、今年2月に第2回を開催している。今回参加者は会社名・役職などを伏せて8チームに分かれ、2日間のプログラムを通じイノベーションのプロセスを学び、新たな事業・サービスの創造・提案を体験した。

第1回、2回と同様、日本郵船の「NYKデジタルアカデミー」の石澤直孝学長が講師となり、イノベーションの例や手法を紹介した。この中で石澤氏は「既存事業の強化は、計画通りに仕事をやり続ける登山家、新たな事業創造は先が見えなくとも前に進み、必要とあれば猪突猛進に突き進む瞬発力が必要なハンターに例えられる」と解説。アイデアソンでは「社会潮流およびヒトの本性と、技術・ビジネスを組み合わせる新たな価値を創造することを目指してもらいたい」とした。

アイデアソン1日目では各チームがテーマとしたい「ヒトの本性」、「社会潮流」について

アイデアを出し合い議論。解決したい課題を洗い出した。さらに課題を解決するための「技術」および「ビジネス」について案を出し合い、新たな価値観での課題解決策を模索した。

また2日目には前日の案をより具体化。アイデアの視覚化や、アイデア説明のためのプロトタイプ作成を経験した。さらに新しいアイデアを魅力的にするための手法として、共感性、意外性を高める表現を工夫しながらプレゼンテーションを準備。最後に各チームが新たなビジネスアイデアを発表した。各チームからはヒトの安心・安全をテーマとしたアイデアやE S GやS D G s 実現のためのアイデアなど、多種多様なアイデアが出された。

最後の講評ではインテルの張磊・執行役員があいさつ。「得たものをどう自分の仕事につなげるかが大事だ」としたうえで、中国のことわざとして「廬山（ろざん）の真面目（しんめんもく）」を紹介。「廬山は中国で雄大できれいな山として有名だが、山の住人は“普通の山だし、きれいでも何でもない”と言う。実際にその場にいると、わからないことがある。この住人がまさにわれわれだ。これをきっかけに、自分を見つめなおし、新しいことに取り組んでほしい」と呼びかけた。

海事プレスに掲載の記事・写真等の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

© Kaiji Press Co., Ltd. All rights reserved.

No reproduction or republication without written permission.